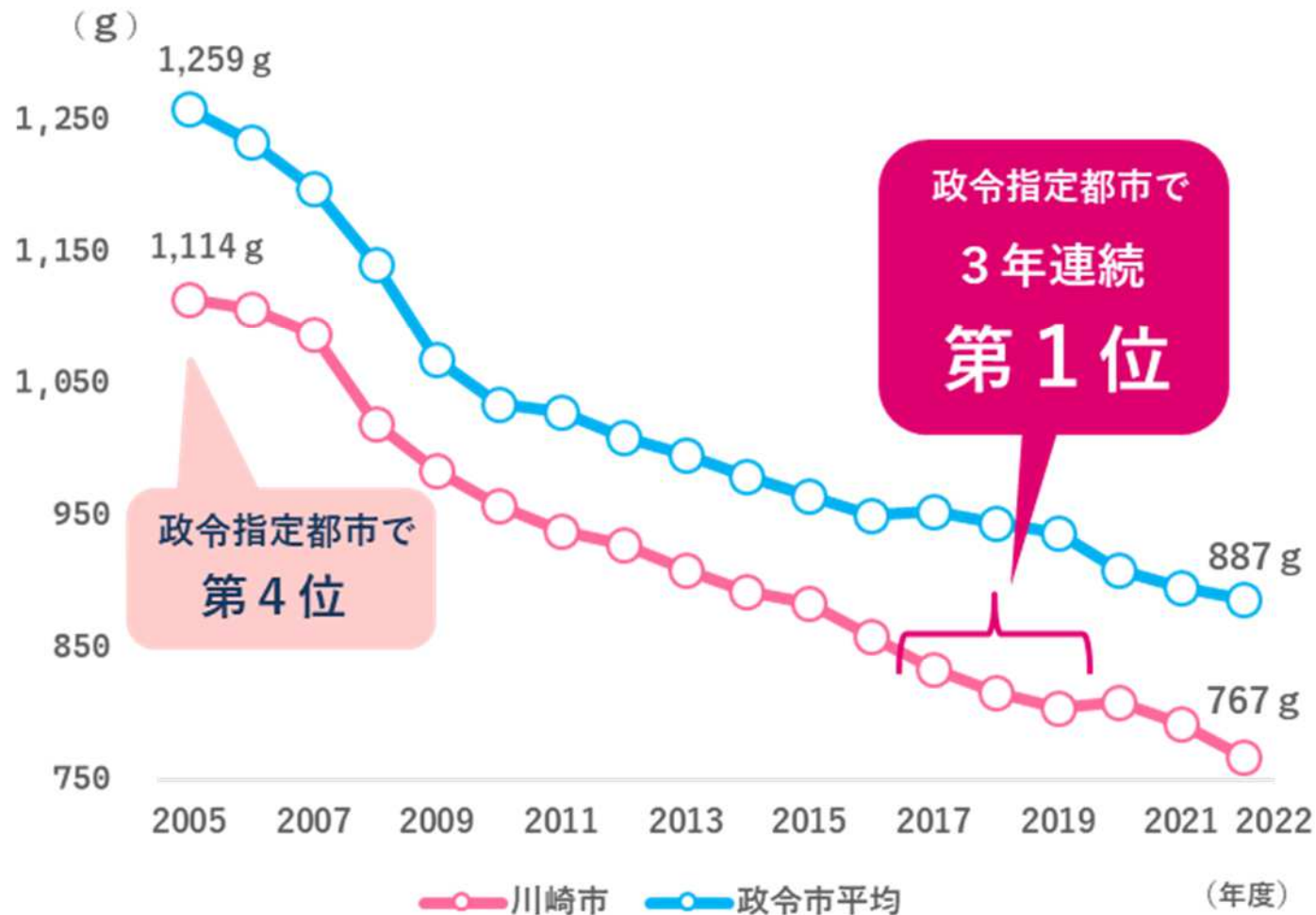

川崎市の廃棄物対策に関する基礎資料集（抜粋）

令和 6 年 5 月 15 日
川崎市環境局廃棄物政策担当・廃棄物指導課

(1) 政令市等の廃棄物排出量比較

1人1日当たりのごみ排出量



- ・本市は2017年度から
3年連続政令市最少
- ・2020年度以降は京都市に続き2位

更なる減量、資源化を推進し
1位を目指す。

出典：一般廃棄物処理事業実態調査の結果(環境省)R6.3
から川崎市データ作成

※本調査の集計においては事業系資源物を含めていないことなど
から前記ページの数値とは一致しない

(2) 廃棄物関連の温室効果ガス排出量の推移

市役所の温室効果ガス排出量

単位：万t-CO₂

項目	2013年度 (基準年度)	2022年度	
		実績	2013比
エネルギー使用起源	19.0	17.0	▲10.8%
・庁舎等	6.4	5.1	▲20.2%
・教育関連施設	3.0	3.8	26.9%
・上下水道関連施設	7.1	5.8	▲19.2%
・病院等	2.5	2.3	▲7.3%
市有車等	2.2	1.7	▲23.3%
非エネルギー使用起源	20.2	19.1	▲5.7%
・廃棄物焼却	15.9	16.2	1.8%
・下水処理	4.3	2.8	▲33.9%
・笑気ガス	0.0027	0.0021	▲22.2%
市役所合計	41.5	37.7	▲9.0%

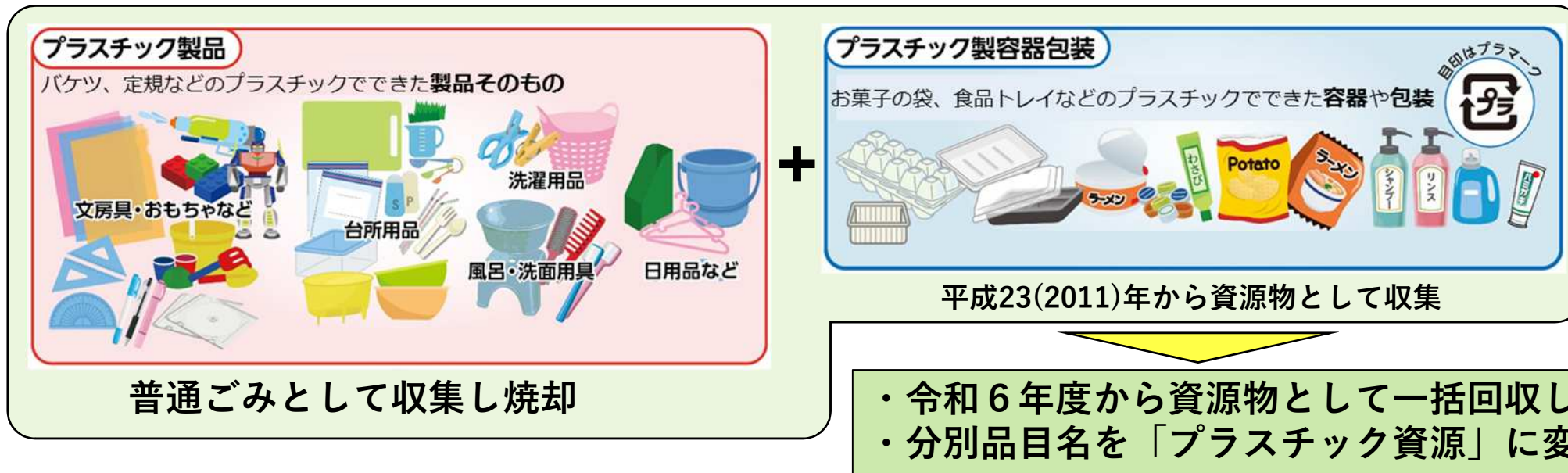
- ・市役所全体の排出量のうち
約 **4 割** が **廃棄物焼却由来**
- ・また、廃棄物焼却のうち
約 **8 割** が **廃プラスチック類由来**

基準年度：川崎市地球温暖化基本計画(R4.3)に基づく

○トピックス（家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収）

一般廃棄物

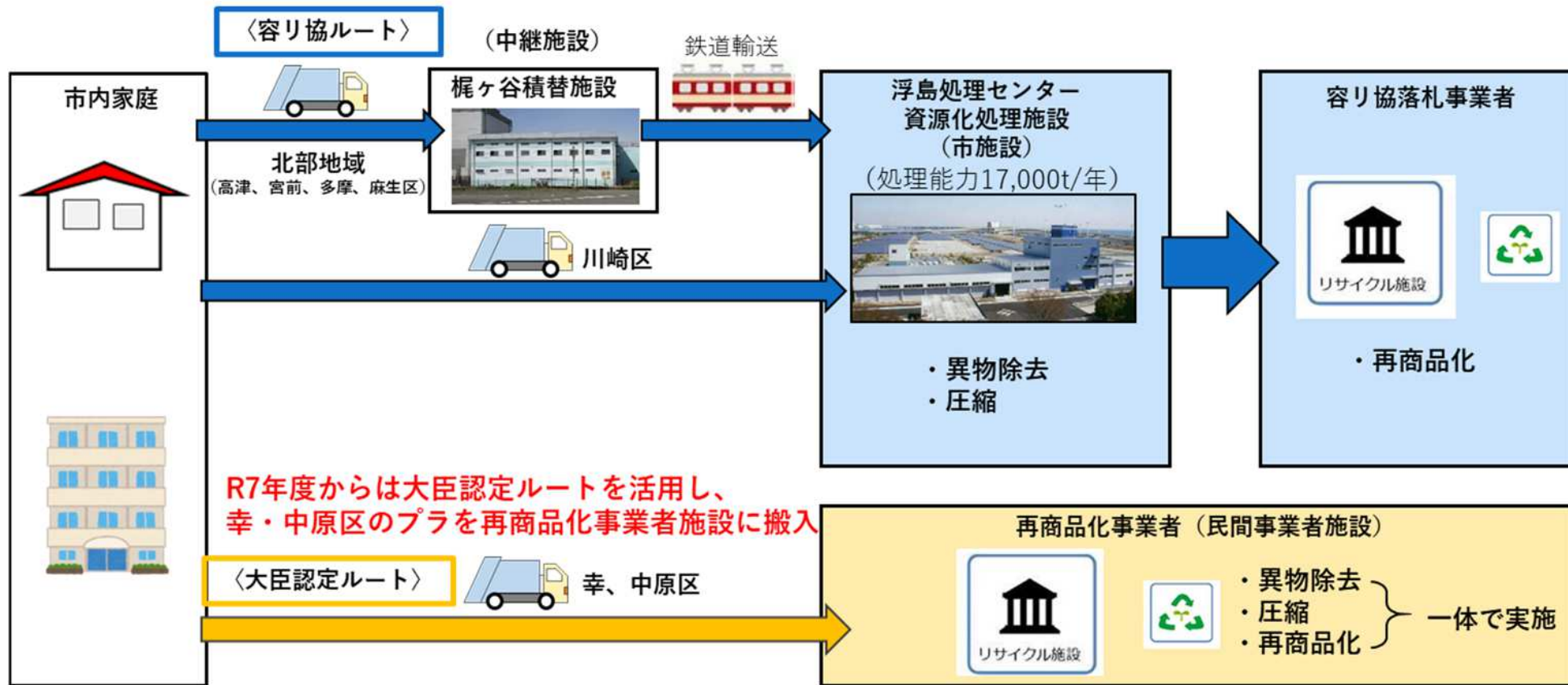
- ・ プラごみの焼却により多量のCO₂が発生することから、脱炭素社会の実現に向けて、**プラスチックごみ焼却量の削減が重要**（廃棄物焼却によるCO₂等排出量の約8割がプラ由来）



○トピックス（家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収）

一般廃棄物

- ・ プラ製容器包装は、全量を浮島処理センター資源化処理施設で異物除去ののち圧縮し、再商品化を容器包装リサイクル協会に委託（容リ協ルート）
- ・ 一括回収により収集量が増加し、資源化処理施設の処理能力を超過することから、令和7年度から幸区・中原区のプラを事業者施設に直接搬入し、異物除去から再商品化までを一体で開始予定（大臣認定ルート） ※再商品化事業者：株式会社Jサーキュラーシステムを代表企業としたグループ



○トピックス（かわさきプラスチック循環プロジェクト）

- ・プラスチック資源循環に向けては、市民、事業者、行政のあらゆる主体が積極的に取り組むことが重要であり、本市における更なるプラスチック資源循環を目指すプラットフォームとして、**2022年4月に「かわさきプラスチック循環プロジェクト」（かわプラ）を設立**
（2024年4月末現在 15者）



（目的）

- ・本市のプラスチック循環に向けたプラットフォームとして取組を企画・展開
- ・市民の行動変容を促し、プラスチック循環のムーブメントを創出

（概要）

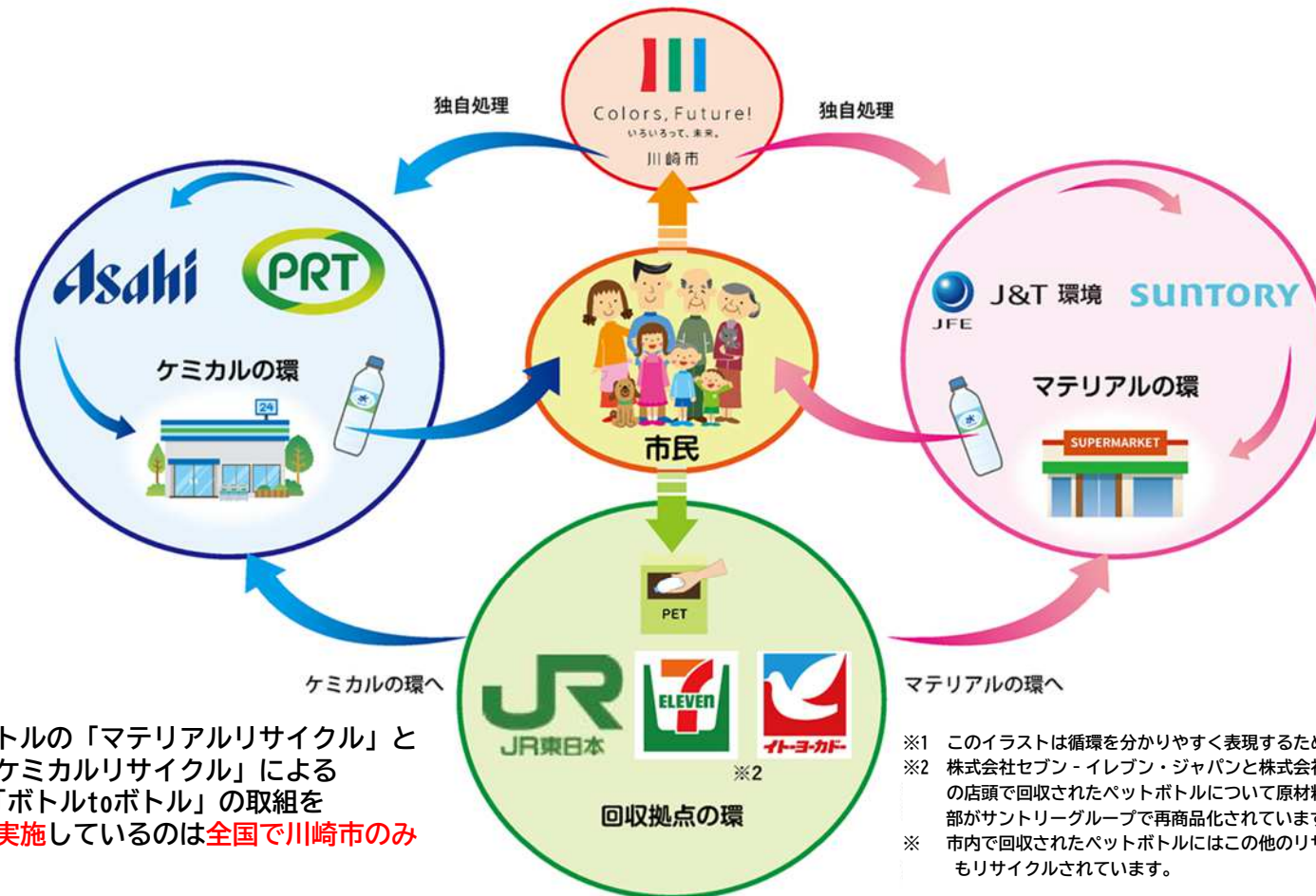
- ・事業者等と連携し、様々なプラスチック循環の取組を連携して推進

○トピックス（かわさきプラスチック循環プロジェクト）

- 「マテリアルの輪」と「ケミカルの輪」のリサイクル技術と市民の行動を促す「回収拠点の輪」の3つの輪でペットボトル水平リサイクルの取組を推進

かわさきプラスチック循環プロジェクト 川崎モデルの3つの環 イメージ

※1



ペットボトルの「マテリアルリサイクル」と
「ケミカルリサイクル」による
「ボトルtoボトル」の取組を
市域内で実施しているのは全国で川崎市のみ

※1 このイラストは循環を分かりやすく表現するためのイメージです。
※2 株式会社セブン・イレブン・ジャパンと株式会社イトーヨーカ堂
の店頭で回収されたペットボトルについて原材料化したものの一
部がサントリーグループで再商品化されています。
※ 市内で回収されたペットボトルにはこの他のリサイクルルートで
もリサイクルされています。

○トピックス（かわさきプラスチック循環プロジェクト）

- ・市内のセブン・イレブン店舗において、ペットボトル回収機によるペットボトル回収を実施
- ・市内リサイクル事業者（J&T環境）により再生ペットボトル原料を製造
- ・サントリーがペットボトル飲料を製造・販売

店舗



○トピックス（かわさきプラスチック循環プロジェクト）

- ・市内駅で回収されたペットボトルを「かわプラ」の循環により、ペットボトルへ「水平リサイクル」を実施
- ・廃プラスチックを水素等の合成ガスに精製し、鉄道等のエネルギー源として活用できるか検証

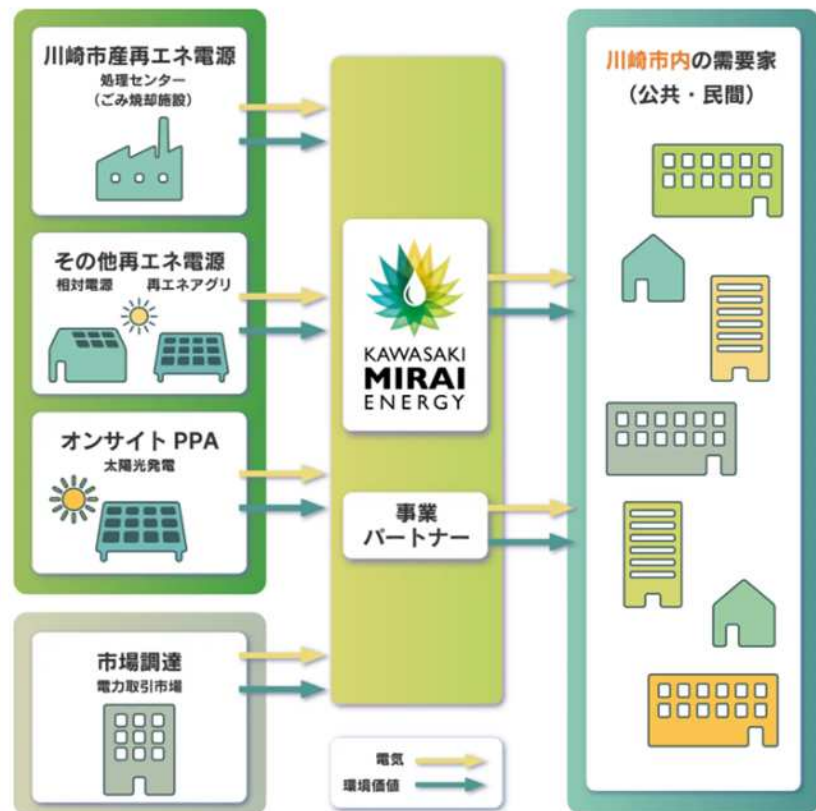
循環型社会(サーキュラーエコノミー)で目指す資源の流れ



○トピックス（「川崎未来エネルギー株式会社」設立）

一般廃棄物

- ・脱炭素社会の実現に向けた先導的な取組として、**再エネ電力の供給**や**太陽光発電等の電源開発**、**エネルギーマネジメント技術**を活用した取組を3つの柱とする、「川崎未来エネルギー株式会社」を2023年10月に設立



- ・市内の需要家へ供給することで**地域自立型の脱炭素化・再エネの地産地消**を推進
- ・2024年度から市内3か所のごみ焼却施設の廃棄物発電の電力を**市立学校や区役所など201施設へ供給**



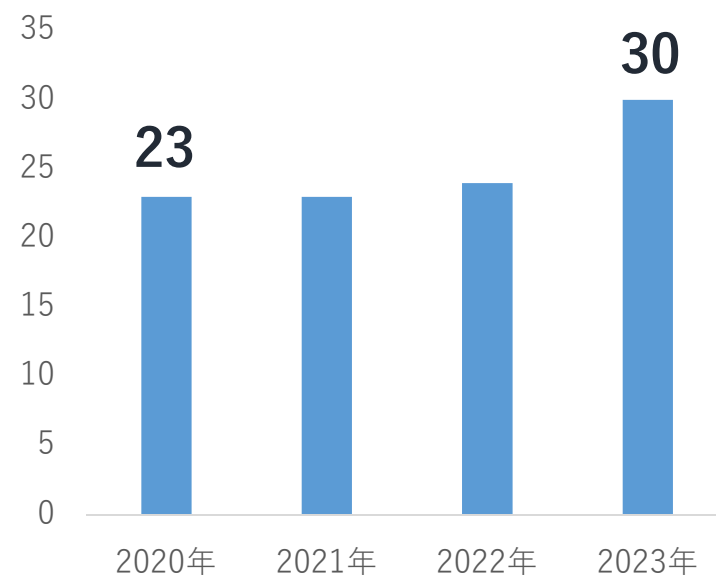
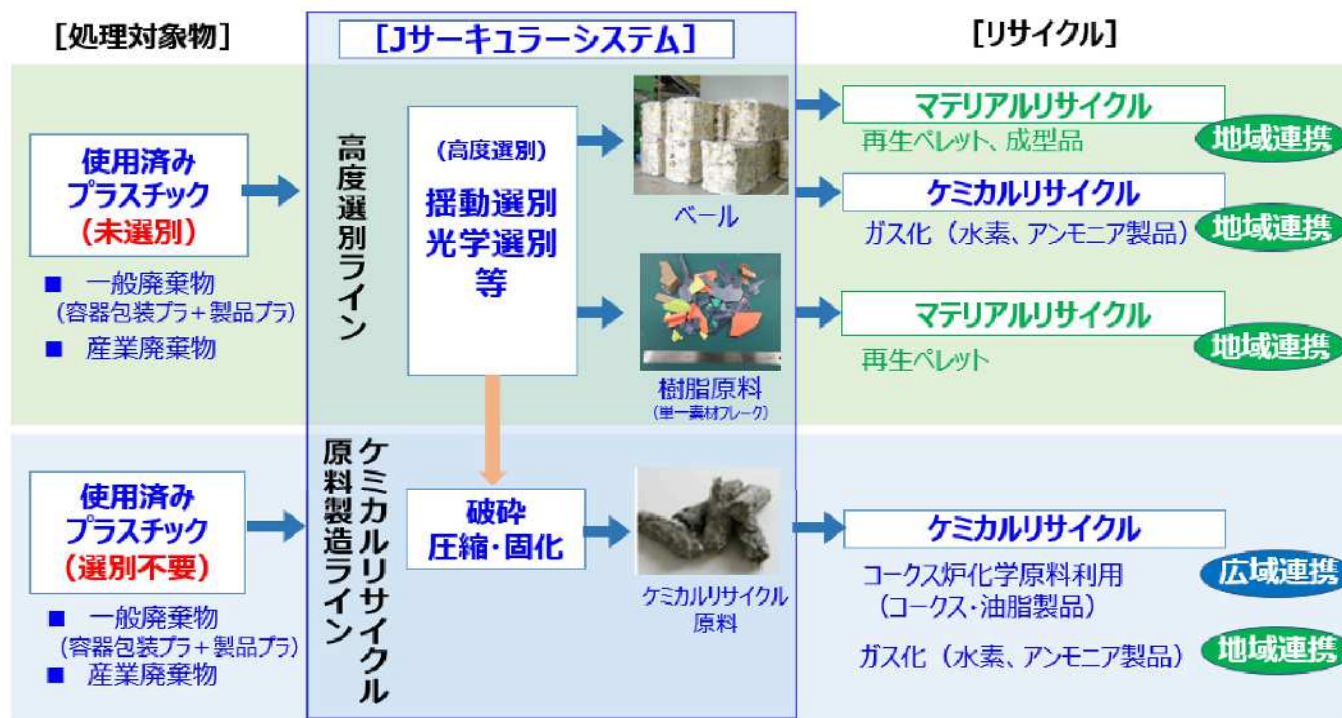
自治体、政令指定都市が主導する電力会社の中では**最大規模**(発電能力26,600kW)

○トピックス（廃プラスチック類の高度リサイクル処理施設）

産業廃棄物

- ・ 廃プラスチック類の高度リサイクル処理施設の設置を促進し、2023年度末時点で**30件の施設**が設置※

※設置中を含む



廃プラスチック類のリサイクル処理フローの例

出典：JFE エンジニアリング株式会社
 J&T 環境株式会社
 東日本旅客鉄道株式会社
 株式会社 JR 東日本環境アクセス
 プレスリリース資料(2024年1月9日)

廃プラスチック類のリサイクル施設設置数の推移

○トピックス（3R・適正処理の推進）

産業廃棄物

- ・産業廃棄物の3Rや適正処理の推進のため指導

立入検査



内容審査

立入検査

排出事業者への立入検査の件数

	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)
立入件数	89	198	183
うち、内容審査関係の 立入件数	20	32	72

- ・市内のあらゆる業種の排出事業者に立入検査を行い、排出抑制や分別の方法などについて指導・助言
- ・内容審査※に基づき廃プラスチック類等の産業廃棄物が不適正排出されることが無いよう指導

※内容審査

市の処理センターにおいて搬入される一般廃棄物を定期的に検査し、廃プラスチック類等の不適正物が混入していた場合指導